

2015年 春の「渡波・クリンソウ」自然観察会 実施報告

日時:5月24日(日) 参加者:10名

当日はサンファン祭りとかちあったため集合場所付近は混雑した。林道管理人の好意で林道入り口の鍵をあげ、中に入る。旧洞源院の上にある埋立地付近に車を止め、鹿害対策で行われた「ワナ」とヒノキの植林地を見て目的地のサクラソウの自生地に入る。そのあとワラビの場所を2ヶ所まわり、帰途につく。

○鹿の「ワナ」は3年前までは利用された様だが、その期間が過ぎたため放置してある状態。以後使用するなら修理を、使用しないなら片づけるべき。

○ヒノキの生育状態：鹿に頂部が食われたものはその腋芽が伸びさらにそれが食われてさらに腋芽が伸び、これをくり返し株元がブッシュ状になり鹿の口が届かないところから勢いのよい芽が伸び、やっとまともなヒノキの樹型になる。おそらく鹿害のない状態と比べると5年ぐらいは遅れているように思える。

○クリンソウはおそらく10日以上開花が早まった様子で4段くらいは咲き終り、頂部の2～3段が咲いている状態だった。ただ今まで咲いてなかったところに3ヶ所程度咲いているのを確認。クリンソウは鹿が食べない様なので、ここの場所が種子の供給地として維持できていれば、長い間には生育環境の適している場所にはあちこちに群落ができる可能性がある。

○ワラビ：クリンソウと同様、暖かいため生育が進んでいた。

○来年は一週間ぐらい観察会を早めてもよいかと思う。